

# 岡山県内企業

# 高齢ペットケア事業拡大

岡山県内の企業で、高齢ペットのケアに着目したビジネスが広がっている。メーカーは脚が不自由になった犬用のサポーターなどの新商品を開発。ペットショップは老犬・老猫向けフードやケア用品を充実させており、動物の往診車を導入して「訪問医療」に乗り出す企業もある。飼育環境の改善でペットの寿命が延びる中、拡大する市場をにらみシェア獲得を目指している。（伊東圭一、森元俊一朗）

から、足腰が弱った犬の歩行を補助するハーネス（胴輪）の販売を開始。今年4月には大型、小型、胸長が3タイプに加え、胸が長くて太いコーギー用も発売した。

丈夫な縫製など学生服のノウハウを生かし、チェック

松尾正男社長は「ペット用の売り上げを目指す」と話。軽く通気性の高い素材、

医療用品メーカーのダイヤ工業（岡山市南区古新田）は、8月、加齢に伴い脚を引きずってしまふ犬用のサポーターを発売した。化学繊維製のベルトで爪先を上向かせ、肉球部分を覆う滑り止めのゴムが蹴りだしの動きを補助する。



ダイヤ工業が開発した犬用サポーター

犬の歩行を補助するトンボのハーネス

## 長寿化に対応

アムリット・DCが導入した往診車



性にも特徴を持たせた。これまでにハーネス全商品で目標を約2割上回る約1千着を販売。少子化で学生服市場が頭打ちの中、同社は「犬種に合わせた品ぞろえをさらに充実させたい」と新たな事業の柱の一つに育てる考え。

ペットの実態調査を手掛けるペットフード協会によると、2014年の飼い犬・飼猫で高齢期とされる7歳以上の割合は、犬が53・4%、猫が41・9%。動物医療の進歩や、室内飼育の増加などを背景に高齢化が進んでいるとみられる。

「ここ2、3年でケア用品やフードの種類は大幅に増え

た」というのは、ペットショップを展開するラビータ（同東古松）。顧客のニーズも高いことから、7月に本社併設の東古松店（同所）に老犬介護用品コーナーを設け、関節痛の改善効果が期待できるサプリメント、おむつなど約20種類を並べた。犬・猫用フードの売り場でも「8歳から」「尿管結石予防」など年齢や体調に応じた商品をそろえている。

7月に開設した同社初の動物病院（同所）とともに運営し、年間約5千万円以上の事業収入を見込む。「飼い主もペットも高齢化し、通院の負担を避けたいという声が高まっている」と黒田展弘社長。

往診車によるサービス提供を神戸市や鳥取県などでも展開する計画を進めている。